

浄土真宗 瑞林寺 坂井輪 墓苑だより	<h1 style="font-size: 2em;">无量壽</h1> <p>(親鸞聖人御真筆)</p>	第49号 平成24年3月8日 発行人 〒951-8133 新潟市中央区川岸町1丁目48 (相沢企業内) 坂井輪墓苑管理事務所 TEL 025-267-9402
-----------------------------	---	--



如来頭部 パリ、国立ギメ東洋美術館

榎本栄一

詩集「煩惱林」より

仮の宿
 三界流転の
 身なれど
 仮のやどの
 いちにちが
 何ごともなく
 暮れました

春のお彼岸ご案内

三月十八日・十九日・二十日
 (お中日) お花の用意いたします。
 お出かけ前に有無のご確認とご
 予約お願いいたします。

お花の予約は

二六七一九四〇二(平日)
 二六〇一五二四九(当日でも可)

墓前読経

二十日(お中日)のみ
 午前八時半より
 午後五時半まで

お墓の掃除・補修・維持管理

お盆前にお墓のクリーニング、
 目地補修等済ませておきましょう。
 お掃除会員墓には、毎年お盆前
 にお墓のクリーニングを実施いた
 します。

瑞林寺のたより

春のお彼岸法要の案内

十時三十分～三時
 おつとめ・法話
 お齋(とき)
 どなたもお参りください

住職・老院の法話と例会

- 正信偈に聞く(住職・老院)
 毎月二十八日 午後一時半
- 歎異抄に聞く(住職)
 毎月第三火曜日 午後二時
- 小針の歴史を語る会(老院)
 月一回日曜 午後一時半

無量壽廟の案内

お墓の承継者の無い方
 子供がいない・娘が嫁いで孫に
 まで頼めないなど、将来に不安
 の方が増えております。
 境内の合葬墓所「無量壽廟」に納
 骨される方、相談にこられる方が
 多くなりました。
 将来に心配の人にはご相談に応じ
 ます。気楽にご来院ください。

あとがき

◇雪、雪、雪の越後の冬も三月を
 迎えて、残雪のなかにも日の光
 に春の兆しを感じられます。
 ◇暖冬といわれる時期がこの二、
 三十年来つづいて、冬囲いや除
 雪など、あまり関心が薄くなっ
 た最近でした。
 ◇こんな雪でも、新潟市内では屋
 根の雪下ろし、部屋の戸が開か
 ない、ふすまが閉まらない、な
 どという言葉を聞くことはあり
 ません。
 ◇東北の大地震・原発につづいて
 水害、豪雪と天災人災の一年、
 現地や避難の方々の苦しみ、報
 道でしか感覚できず、時間とと
 もにマヒする恐ろしさと恥ずか
 しさを感じます。
 ◇災害は忘れた頃にやってくる、
 といわれますが、心に感ずる事
 と、身に感ずる事には大きな開
 きがあります。
 ◇他の人の悲しみや苦しみを「わ
 がごと」とできない、他人事に
 かたづけ逃げる、この人間の
 愚かさ、その私を知り尽くして、
 じっと見つめつづける方、阿弥
 陀さまです。

地獄の底からの呼び声

瑞林寺前住職 廣澤憲隆

仏の世界に生まれ、仏に成ることを人生の目的として生きる、これが仏道です。その歩む地図と歩み方を指し示すのが仏さまの教え仏教です。

私たちは当面の問題や事件に迷惑し、振り回されて、自分はどこへ向かって、どうなりたいのか、目的も目標もなく、唯いたずらに走りつづけるほかないうちに老い、終末の壁が現れる。

その厚い壁は、人間がどんなに挑んで悪戦苦闘してもどこでも動かない。閉じられた鉄壁の前に血を流し、身を砕いて無残に倒れ、動転悶絶してのたうちまわるこの世のいのちです。

過去の栄光の思い出も、ただ激流に渦巻く潮の底深くのみこまれて、ただ消滅してゆくほかない、としか考えられないのが人間の思慮分別のかぎりです。

この現前の事実を、素直に受け入れることができれば最高の人生、とみなすのが現代の死生観です。

死はだれにも平等の真理

だれにでも平等に迫り来る死の壁には、人間の必死の努力にも、無情にも平然と無言のままはね返し、全く無視する、非情の冷酷な眼があるのみです。

人間が「能力、努力の限りをつくして不可能である」ことを「自力無効」といいます。

この人間の悲惨さ、矛盾、無能の悲しみの底から、その悲しみを痛み、一つとなつて同悲同苦する大慈悲心、愛の心が生まれました。これが阿弥陀如来です。

人間の誕生以来、未来永劫にわたり、永遠に解決不可能な人間のかぎりを見きわめた真理の法、智慧の鏡、闇を照らす光、阿弥陀如来さまの誕生です。

見れば見るほどに、痛ましくも悲惨な人間の姿を、そのままに見はなせない、目をそらせないうちに、おのずと一体となつて抱き取る、その愛一杯の大慈悲の活動が阿弥陀如来さまです。

人間の無能無力の底、力のつきた底無しの地獄の底から、無限に人間の真実を照らします、光明と慈悲の活動体が阿弥陀如来さまです。

いのちの根拠、南無阿弥陀仏

真理の法、阿弥陀さまには、本来すがた、かたち、名はありません。しかし、目に見えないその大慈悲心の活動を、ことばで生きる人間にわかるように、みずから私たちに言葉となつて名乗りあげて告げる、その名が南無阿弥陀仏の六字の名号です。

南無阿弥陀仏は呪文ではありません。助けて下さいとの祈願でもありません。依頼心でもありません。持てる力のかぎりをつくして解決不能、疲れはて、倒れるものを、すでに私に先だって、私をかねて遠き昔から知りつくして、いつでも、どこでも、だれにでも、地獄の底から

「大丈夫だよ」「心配要らんよ」「全責任を私が引き受けるよ」「私の胸に抱き取るよ」と、打ちひしがれ私に、愛の胸ぐらからの「呼び声」、わが子を痛む、必死な叫びが六字にこめられた心です。

この大悲の愛のはたらき南無阿弥陀仏が、生きる根拠「よりどころ」となる生きるお念仏の称名です。どのような状況に陥ろうと、如来さまの愛の確かさへの信頼だけが唯一の私たちの進む白い道です。

聖典を読む

親鸞聖人の

正信偈のこころ (10)

獲信見敬大慶喜
即横超截五惡趣
一切善惡凡夫人
聞信如来弘誓願
仏言広大勝解者
是人名分陀利華

〈よみかた〉

信を獲れば、見て敬い、大いに慶喜せん。
すなわち、横に五惡趣を超越す。
一切善惡の凡夫人、如来の弘誓願の願いを聞信すれば、仏は、広大勝解者といえり、この人を分陀利華と名づく。

〈意味〉

信をえて、如来の御心にあえば、その如来の深い大慈悲を敬い喜ぶ心が生まれます。

その喜びは、自分の力では断ち切れない、地獄・餓鬼・畜生・人間・天上の五つの迷いの世界を、たちどころに如来の願力で断ち切る徳が与えられます。

すべて善人も悪人も、弥陀の本願を信じる人をお釈迦さまは、悟りの智慧を体得した広大勝解者とも、清浄無垢な白蓮華(分陀利華)とほめ讃えられます。

迷いの世界—六道輪廻—

如来の本願を信じ念仏申す、他の力の教えは、迷いの世界(六道・六趣)を超えて、大丈夫の世界、不退転の心境を得ることです。
今、五趣とは地獄・餓鬼・畜生・人間・天上の苦しみの世界で、これに修羅を加えて、六趣とも六道ともいう私たちの迷いの境涯のことです。

地獄道 貪欲による
餓鬼道 怒りによる
畜生道 愚かさによる
修羅道 闘争心による
人間道 苦楽相半する
天上道 満足に溺れる
いづれも、この六道の苦の世界を果てしなく迷い続けて(六道輪廻)流転をくりかえし、永遠に救われない凡夫の生死です。

六道のなかでも、天上界を最高と錯覚して、天国ということばが流行りますが、天国も仏様の眼からみればやはり迷いの苦界です。
天国の豊さ・便利さ・自由は、氣力、生き甲斐の衰えや退屈と表裏一体の苦界です。

迷いを切る如来

迷い苦しみの原因は煩惱です。貪欲・怒り・愚痴など、数かぎりない煩惱でできあがっている凡夫は、同時に、悪を少しでも減らし、断ち切り、善の方向へ修正しようとする、真面目な心をも持つのも人間です。これが反省、心がけ、修養、修行となります。

ところが、煩惱は身や心と一体ですから、切つても切つても身体から湧いてくる、煩惱は臨終の一念まで消えず、絶えず、衰えることはありません。

いのちと煩惱はひとつですから、煩惱を断つて完全者になることは不可能です。
この自分の手に負えない、始末できない煩惱まるごと、引き受けることを約束して下されるのが如来の大悲のご本願です。
この如来にただまかせること、信心一つに煩惱は氷解します。